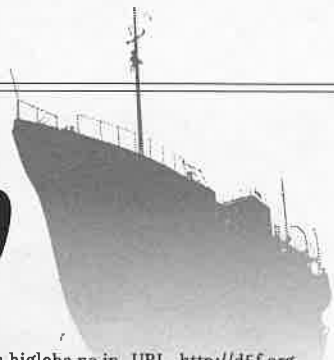


都立 第五福竜丸展示館ニュース

2004.04.01  
No.307

# 福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

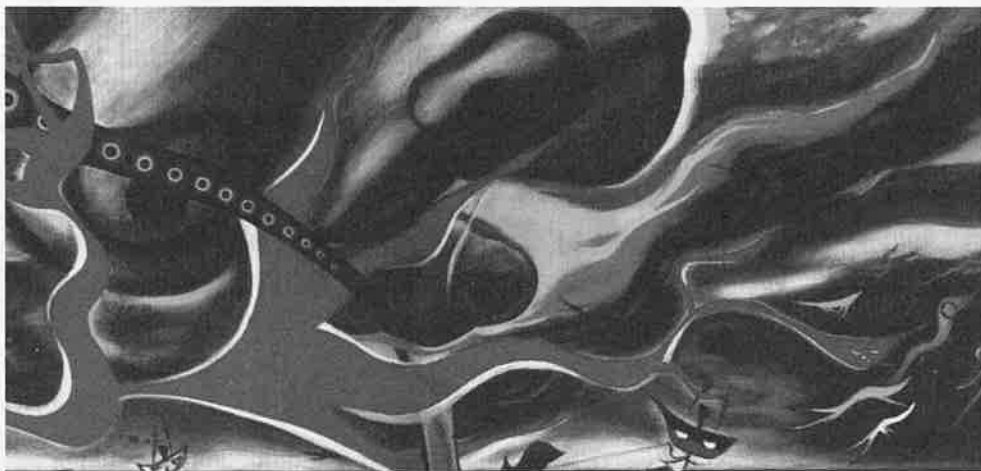
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

50年目の3月1日を迎え  
原水爆のない未来へ  
あたらな航跡を



岡本太郎

「明日の神話」の  
第五福竜丸展  
4/3 ↓ 4/11



「明日の神話」右下に福竜丸（部分）

被災五〇年の3・1ビキニデーの記念行事として、第五福竜丸平和協会は展示館の常設展示のリニューアルにつづいて、二月二十八日に「3・1ビキニ記念のつどい」をおこないました。

「新藤兼人監督と語り観る映画第五福竜丸」と題したつどいには九〇名が参加しました（2面詳報）。つどいの冒頭、川崎昭一郎平和協会会長は、ビキニ水爆により放射能の恐ろしさ、環境破壊、水爆戦争による人類絶滅の危険を初めて世界に示したこと、これに対し人びとは機敏に原水爆反対の声をあげ、科学者をはじめ立場の違いを超えて協力しあい、人類につきつけられた非常に難しい問題に真正面から取り組んだと語り、展示館を訪れ、五〇年後の現在の生き方に関するヒントをつかんでいたいただきたい、と挨拶しました。

### 「明日の神話」の特別展示

岡本太郎記念館の協力による「岡本太郎『明日の神話』の第五福竜丸展」のオープニングは、四月三日の午前十一時より岡本敏子記念館館長を迎えておこなわれます。「明日の神話」は、甲板の上に四月一日まで展示されます。

50周年記念事業へのご寄附に心から御礼申し上げます。

財団法人 第五福竜丸平和協会

3・1ピキニ記念のつどい開かれる

新藤兼人監督と語り観る  
映画『第五福竜丸』

二月二十八日、「3・1ピキニ記念のつどい」が開かれました。この日は五〇年目のピキニデーを前にした土曜日ということもあり、展示館は早朝から多くの見学者で賑わい、関心の高さが感じられました。

「つどい」の参加者はまずリニューアルされた展示館の見学、つづいて夢の島公園内のマリリーナ会議室で「新藤兼人監督と語り観る映画『第五福竜丸』」と題したシネマ&トークを行いました。



材等に時間をかけたとのことでした。

映画会社からは「第五福竜丸を素材にし、原爆をテーマにしたことで、どこか映画会社も配給しない。そんな陰気くさい話をやったって(客)は入らない。こんなもの作ったら君のプロダクションは潰れるよ」と断られたものの、「意味のある仕事だから、なんとしてもやろう」という気持ちで作ったと語りました。

貧乏撮影

潰れるよ と言われても この作品を撮るに当たって新藤監督は「原爆の子」を作ったことでひとつの役割を果たした気がしていたが、もつと突っ込んで原爆に関わる映画を撮りたいと、第五福竜丸事件がおきたときから考えていた「記録的な問題を俳優でやるというのは今でこそ普通だが、当時としては珍しい手法」だったと話しました。また、シナリオを書くに当たっては調査に二年かかったこと、第五福竜丸乗組員が入院した病院訪れ医療関係者に取

た。そして核の「とんでもなさ」を伝えたと共に「こんなにちまでやってきた独立プロの考え方、その後の独立プロのあり方にも大きな力になった、そういう意味では記念碑的な作品となった」と話されました。

「原爆」はライフワーク

新藤監督はこれまでも『原爆の子』『ドキュメント8・6』『さくら隊ちる』等の作品を通して原爆について鋭く言及されてきました。「私にとって原爆はライフワークのひとつで、チャンスがあればこれからも作っていきたい。これからも作っていきたい。『第五福竜丸』は本当に撮ってよかったと思う」と話を締めくくりました。

また今後の作品の構想につ

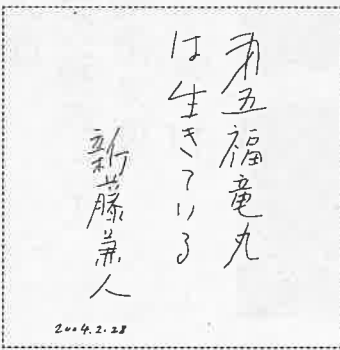
いての質問に対し、「核というのとは人類滅亡のキーを握っているように思う」「(自分の出身は広島なので)広島に原爆が落とされたその瞬間の映画を作りたい」と次のように語りました。

被爆前と被爆後はわかっているが「落とした瞬間のことはわかっていない」「人間が生きて生活しているという事実がわずか二・三秒で消された。六万人が焼かれた」「その落ちて炸裂した最中を見ないと原爆のもっている凄さはわからない。それを世界中に見せなくてはならない」。

この映画の構想は1秒間のできごとを二時間に拡大するもので、予算二〇億円。「作らなくてはならない」と繰り返す新藤監督の迫力と熱意が伝わりました。

\*

会場には映画で久保山愛吉さんの子ども役を演じた寺村優子さん、友子さん姉妹も参加され、「今、平和について考えなくてはいけない時。この映画をもっと観てほしい」と挨拶しました。



当日書かれた色紙

50周年記念図録「写真でたどる第五福竜丸」書評

## 「語り部」第五福竜丸の記録

岡本三夫

このたび、図録「写真でたどる第五福竜丸」がビキニ水爆実験被災50周年を記念して出版された。ヒロシマ・ナガサキ級原爆のおよそ千倍の爆発力といわれる核実験で放射能汚染された遠洋マグロ漁船・第五福竜丸についての図録と写真とエッセーによる克明な歴史的記録である。過去を忘れることは現在を軽視し、未来への責任を回避することに繋がる。核被害につい

ては特にそうだ。その意味で、この図録・写真集の出版の意義は大きい。

後になって判明したのだが、高知港ほかから出港していた八五六隻の遠洋漁船も被爆していた。「プラボー」と命名されたこの水爆実験は、製造に関与した科学者達の予想を遙かに超える爆発力を持ち、マーシャル諸島海域を放射能汚染した。実際、第五福竜丸をはじめ、被爆した漁船はみな



図録は朝日新聞読書欄などで紹介され好評

事前に通知された危険水域にはいなかった。が、日本のマグロ漁船は被爆した。第五福竜丸の乗組員二三人（一八歳（三九歳）は急性放射能症に罹り、半年後に無線長の久保山愛吉さんが死亡した。

しかし、この図録・写真集が訴えているのは、半世紀前の放射能被爆が決して過去のことではなく、いまなお「現在進行形」であることだ。古里である島がいまなお放射能で汚染されているため帰郷できない島民、放射能禍で現在も苦しんでいる島民、古来の生活様式を破壊され、生業を奪われてしまった島民、そのさまざま切々と伝わってくる。早大大学院博士課程在籍の竹峰誠一郎君の「解説・マーシャル諸島の核被害者」がそうで、島民の苦悩を赤裸々に描いており、珠玉の一篇である。興味深かったのは、武藤宏一さんという二六歳の青年の投書「沈めてよいか第五福竜丸」（朝日新聞 一九六八年三月十日）が反響を呼んで、廃棄寸前の第五福竜丸が保存されることになったという逸話だ。評者は昨春になって初めて都立第五福竜丸展示館を見学したのだが、福竜丸のような数奇な運命は知らなかった。今度訪れた時には、逆境にめげず被爆体験を証言し続けるこの「語り部」に、「ご苦労さん」と声を掛けてやりたい。（広島修道大学教授・平和学）

『ビキニ事件と私』手記の募集  
6月末まで延長

五〇周年記念事業の一環としてよびかけている手記「ビキニ事件と私」には、これまで四〇編が寄せられ、いずれも庶民のなかに残るビキニ事件が興味深く描かれています。

マグロを敬遠するエピソードが多いなか、「こんなときでなければマグロなんか食べられないと食べた」話や「放射能雨が危険なので水を飲むな」としかられ反発した」など貴重な記憶が寄せられています。

平和協会では、手記の応募集締切りを六月末まで延ばし、募集をつづけます。

### 初めての図録ビキニ水爆実験被災50周年記念出版 写真でたどる第五福竜丸

編集・発行＝財団法人第五福竜丸平和協会 発売＝平和のアトリエ

内容＝刊行にあたって、都挨拶、カラーグラビア・第五福竜丸、水爆実験との遭遇、乗組員のその後と久保山さんの死、「原子マグロ」と国民生活、ビキニの海へー俊鷗丸の海洋放射能調査、漁船第五福竜丸、原水爆反対の声おこる、乗組員へのお見舞いの手紙、漁業補償と事件の「決着」、マーシャル諸島の核被害、第五福竜丸の保存と展示館の建設ほか。解説＝水爆実験と日本の科学者、第五福竜丸の現在－日本経済への影響、マーシャル諸島の核被害者ほか、年譜・第五福竜丸のあゆみ、など。A4版、104ページ 展示館特別価格2000円（送料共）

## 福竜丸船体の放射能 測定をした 西脇安博士が来館

生物物理学研究者でウィーン大学名誉教授西脇安（にしわきやすし）博士が展示館を訪れました。

西脇博士は「ビキニ事件」の第一報を知るや大阪から夜行列車で焼津に向かい、3月17日いち早く第五福竜丸の船内を調べ「死の灰」を採取、分析しました。

1954年の秋にはヨーロッパの学会でビキニ水爆と第五福竜丸乗組員の実態を報告し放射能の危険性を訴えました。事件当時、大阪市立大学助教授だった西脇さんは大阪市場でマグロなどを厳しく検査し、焼津の業者から「鬼門」と恐れられた、というエピソードも残っています。国際原子力委員会（IAEA）などでも活躍され現在ウィーンに住んでおられます。

西脇さんは「ビキニ50年に日本の様子を見てみたかった」「第五福竜丸の船体の面積から放射線量をもう一度計算してみたい」と50年ぶりの船との再会で語っていました。

西脇さんはビキニ水爆被災50周年研究集会や3月1日の静岡での諸行事にも参加しました。



西脇さん（左）と、俊鶴丸に乗船し調査にあたった岡野真治さん（右） 2月21日ビキニ被災研究集会にて

## 新聞・テレビ 連日の報道で たくさんの来館者

3月1日を前にして事務局は、新聞・テレビ等の取材対応に追われ、たくさんのビキニ事件関係、マーシャル諸島の被害などの報道がなされました。その影響もあり、展示館への問い合わせが増え、来館者も3割増となっています。

来館者の中には「夫がビキニ事件当時マグロ漁船の船長だったが、事件を契機に船を下り、ずいぶんと丈夫だったのにガンで亡くなった、ひょっとして被ばくしたのかもしれない。新聞を読んで思い出しました」と来られた方もありました。

また第五福竜丸元乗組員で大分県出身の安藤三郎さん（甲板員・故人）のお孫さんが来館され、「祖父からは事件のことを聞いたことはありますが、あまり詳しいことは知らなかった。一度船を見てみたかった」と話していました。

静岡県藤枝市からは、東京に曳航される第五福竜丸を海岸で見送ったという当時中学生だった方、エンジンを製作した新潟鉄工の社員だった方からは、第七事代丸（第五福竜丸の前身）建造時にエンジンをとりつけた方についての情報が寄せられました。

放射線医学総合研究所からは放射線医療研修で来日中のアジア地域の医師30名が明石真言被ばく医療部長の引率で来館し、川崎会長から説明を受けました。

### <この間の報道>

朝日新聞●連載・ビキニ被曝50年「マーシャルは今（03.11.6-11.19 3回）」「乗組員たち（1/26-28 3回）」

「米軍兵士（2.29-3.1 3回）」●被災船を追って（高知版 2.25-27 3回）毎日新聞●連載・ビキニ事件 半世紀の刻印（2.29-3.7 7回）●ビキニ半世紀（静岡版）

読売新聞●連載・あの海から ビキニ被ばく50年（2.29-3.2）

中国新聞●連載・ビキニ被災50年第一部マーシャルの島民たち（2.12-19 7回）第二部焼津から（2.24-28 5回）●「米の核戦略に批判／広島でビキニ50年集会」（3.2）

静岡新聞●連載・50年目の証言（2.23-29 7回）

紀伊民報●証言あの日マグロ漁船ビキニ被ばく50年（2.27-29 3回）

●第五福竜丸被ばく50年（3.3-4）●古座町で平和のつどい（2.18）

長崎新聞●第五福竜丸事件のABC報告（2.24）

共同通信●連載・検証ビキニ死の灰～第五福竜丸事件から50年（10回）岐阜新聞・東奥日報・神戸新聞・千葉日報・信濃毎日新聞・中日新聞等で連載

●NHKラジオ「ラジオあさいちばん」（2.13／安田事務局長出演）●NHKおはようっぴん首都圏（3.1／川崎会長出演）●TBSニュース23（3.1）●静岡テレビ●読売テレビ●ロシア国営テレビなど

●NHKラジオ「ラジオあさいちばん」（2.13／安田事務局長出演）●NHKおはようっぴん首都圏（3.1／川崎会長出演）●TBSニュース23（3.1）●静岡テレビ●読売テレビ●ロシア国営テレビなど

●NHKおはようっぴん首都圏（3.1／川崎会長出演）●TBSニュース23（3.1）●静岡テレビ●読売テレビ●ロシア国営テレビなど

●NHKおはようっぴん首都圏（3.1／川崎会長出演）●TBSニュース23（3.1）●静岡テレビ●読売テレビ●ロシア国営テレビなど

●NHKおはようっぴん首都圏（3.1／川崎会長出演）●TBSニュース23（3.1）●静岡テレビ●読売テレビ●ロシア国営テレビなど

☆（^\_^）ボランティアメール☆

リニューアル展示の壁作りからつどい受付・会場づくり、団体ガイドに資料整理とフル回転の春でした。今月は岡本太郎さんの大事な絵をお借りすることもあります。新メンバーも加わり、ますます忙しいボランティアの会です。（ま）